



「パネルで勉強」

好評だった「親と子の消費者展」

第4回親と子の消費者展が10月21日と22日の2日間、ユニー吉原店で盛大に開かれました。

この消費者展は、市と市消費者運動連絡会および県東部消費生活センターの共催で行われたもので、約1万6,000人の親子づれで賑わいました。会場には、子どもたちが抱えて

いる悩みや、大人に望みたいことなどのアンケート調査結果をまとめた統計図表などがパネルにおさめられ会場狭しとばかりに展示されていました。

とくにことしは、この「こどもの声」、「こどもの目」、「こどもの夢」のアンケート調査結果のパネルに人

気が集まり関係者はホクホク顔でした。このほか各種コーナー別に20種類が展示され、中でも食生活の問題を取りあげたコーナーや、協賛の東電、電報電話局、歯科医師会、薬剤師会などの各相談コーナーも、なかなかの好評で、また、電話局の昔なつかしい「カベ掛け電話」と時代の脚光を浴びている「プッシュホン」などが子どもたちに人気を呼んでいました。【写真・人気を集めた親と子の消費者展】

今回発行の広報ふじは、おしらせ広報「暮らしのたより」と合わせて編集発行しましたのでご承知ください。

岡田、諸星さん

晴れの県知事表彰を受ける

昭和53年度静岡県知事表彰は、11月3日「文化の日」に県正庁で行われ、市では次の二人の方が受賞されました

●社会福祉功勞

岡田農正さん (62歳・天間)

昭和21年民生児童委員に就任以来、32年有余、要保護世帯の援護と自立更生に献身的な奉仕活動をつづけられ、その間、富士市民生委員連絡協議会会長や福祉協議会副会長の要職を歴任されるととも

に、家庭裁判所調停委員をも重ねられ、民生の安定と社会福祉の増進に貢献されました。

●水火災防護功勞

諸星利一さん (65歳・緑町)

昭和14年警防団員を拝命以来、39年有余、消防に尽すいし、強い責任感と犠牲的精神をもって、市民の生



【岡田農正さん】



【諸星利一さん】

命財産の保護と災害の防護に献身されるとともに、消防団長及び幹部団員として団員の資質の向上や消防力の拡充強化につとめられ、自治体消防の発展と民生の安定につくされました。

新総合計画への市民参加 アンケート調査結果がまとまりました

＝回収率は96.9パーセントの好成績＝

富士市総合計画へのアンケート調査がこのほどまとまりました。この調査は総合計画の草案が具体化されていく中で、真に市民のための「まち、づくり」をすることを願い、計画への市民参加として28の設問についてアンケート調査を実施しました。そしてここに出された多くの意見は新総合計画策定のため

の貴重な資料として活用することになっています。

調査の対象は、市内有識者 321 人から確度の高い結果を得るため「テルファイ」手法（前後2回）により調査し、回収も市職員が行ったため、回収率は実に96.9%と高く、321人中、311通の回答を寄せていただきました。おもなものは次のとおりです。

〔問〕新総合計画は市とすべての市民とが一体となって、住みよい豊かなまちをつくりあげていくための道しるべとしてつくられたものです。あなたはこの総合計画について関心をお持ちでしょうか

が低い」と答え、更に19.6% (61人) が「公害等が発生し生活環境が悪い」ときびしい意見が出されています。

96%の市民が関心をもつ

＝市の新総合計画＝

〔答〕これに対し、実に65% (202人) が「非常に関心がある」と答え、31.5% (98人) が「普通程度の関心がある」と答え、総体的には96%以上の人々が新総合計画に強い関心をもっていることがわかりました。

〔問〕あなたはこれからの富士市がどのような都市になることを望んでいますか。

早く『生活環境施設の完備』を

〔答〕この問いに対しては、28.9% (180人) が「恵まれた自然や生活環境施設のととのった都市」と答えつぎに23.5% (146人) が「創造性豊かな人づくりと香り高い文化を育てることが出来る都市」と答えています。また「だれもが希望をもって働くことのできる都市」と答えた人は全体の131人 (21.1%) ありました。

〔問〕現在の富士市についてあなたは今どのように感じておられますか。

比較的生活が安定しています

〔答〕この問いには、24.8% (77人) が「就労の機会に恵まれ、比較的生活が安定している」と答えており、次に22.5% (70人) が「他都市にくらべ文化水準

〔問〕市民の健康を守るために医療体制の整備は重要課題の一つではありますが、今後重点的整備が必要と思われるものは次のどれですか。

『市立中央病院』の機能充実へ

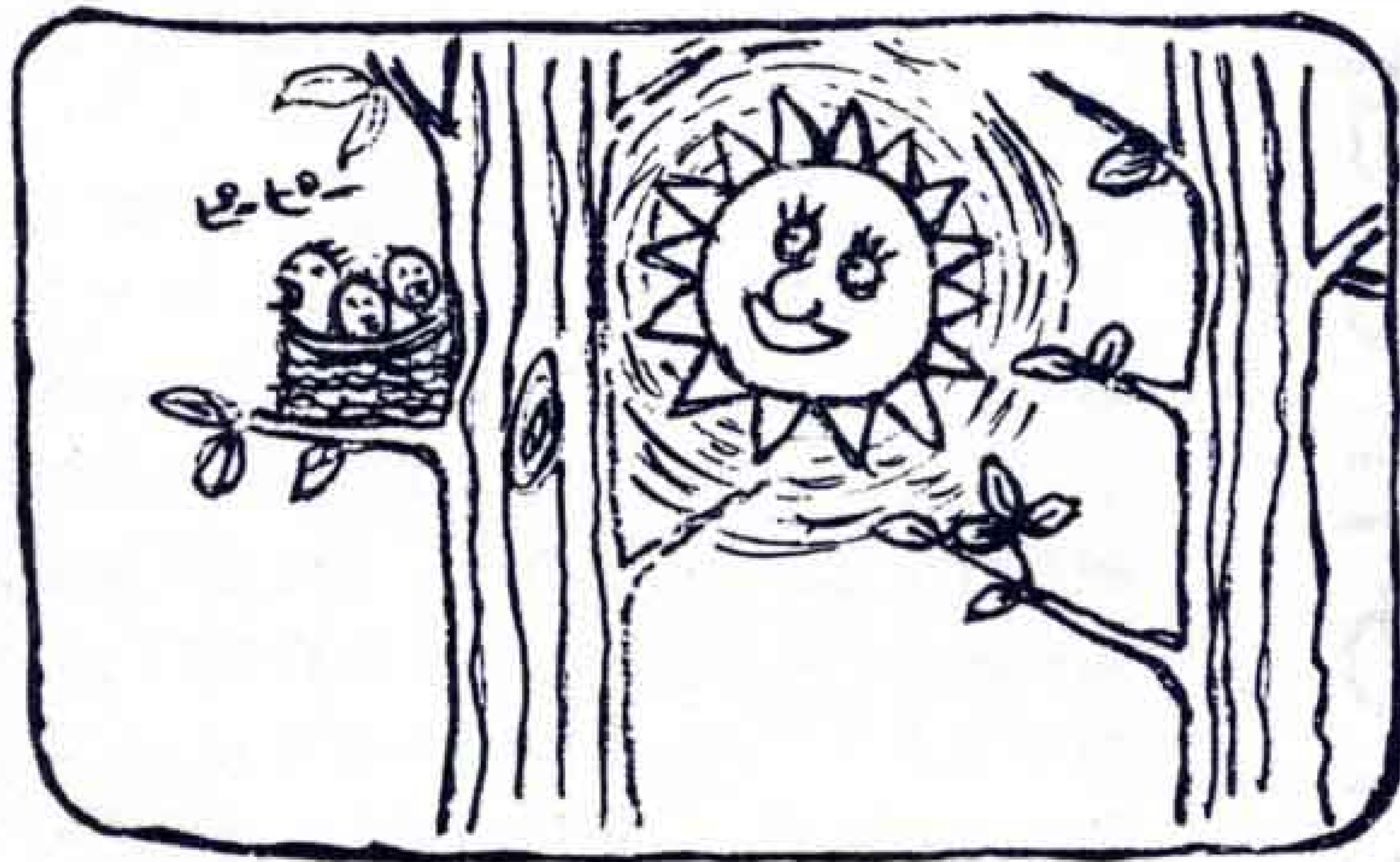
36.5パーセントが強く望んでいます

〔答〕 この医療体制の整備については、36.5歳(227人)が「市立中央病院の機能の充実」を望み、つぎに26.5歳(165人)が「救急医療体制の充実強化」と、15歳(93人)が「医師、看護婦等の確保」と答えています。

〔問〕 都市を災害に強い体質につくりかえるためには、火災、風水害、地震等の防災対策が一体的にすすめられなければならないと思いますが、次の対策の中から、当面重要と思われるものを選んでください。

風水害対策がトップで65%パーセント

〔答〕 火災対策と風水害対策および地震対策の三つにわけて、それぞれ上位5位について再度調査を行った集計結果です。まず火災対策のトップは、50.8歳(154人)が「火災を未然に防止するための予防査察の強化」と答えており、風水害対策では、65.3歳(198人)が「中小河川の総合的な改修、整備」と答え、また、地震対策では、34.3歳(104人)が「情報の収集、伝達機能の強化」を希望しています。



〔問〕 都市は、快適で住みよい生活の場でなければなりません。都市の快適性を確保するうえで、生活環境施設の整備は、市民にとって常に重要な課題であると考えられます。次の生活環境施設の中で今後とくに力を入れなければならないものは、どれだと思えますか。

約60%が『下水道』の整備を

〔答〕 なんとといっても「下水道の整備」がトップで59.4歳(180人)と答え、もっとも強い意見を出しています。ついで「道路」が11.9歳(36人)、「公園緑地」と答えた人が10.2歳の順になっています。

〔問〕 生活環境施設のうちで、ゴミやし尿処理施設、下水処理場等の建設にあたって、地域住民の理解を得るためにどのような対応が必要だと思いますか、最も重要だと思われるものを選んでください。

〔答〕 「公害対策や地域への見かえりを十分考える」と答えた人が全体の33.4歳(104人)と最も多く、次に「地域住民だけでなく全市民的立場から市民討議の機会をつくる」と答えた人が28歳(87人)ありました。

〔問〕 水需要の大半を地下水に依存している富士市にとって、地下水保全の成否は、今後の都市発展にとって大きな制約条件にもなりかねないと思います。地下水の塩水化や水位低下等障害を防止し、地下水としての有効利用とその保全をはかるため必要と思われる対策を、次の中から選んでください。

〔答〕 298人が回答をよせ、「工業用水道を整備し、地下水から工業用水道へ水源転換の促進」と答えた人が約半数の50.2歳(152人)を占め、次に「地下水の塩水化や水位障害を防止するため地下水採取の規制強化」というのが22.8歳(69人)ありました。

〔問〕 教育の充実は、市民にとって常に重要な課題の一つと考えられます。学校教育分野の施策として今後とくに望みたいことは、どのようなことと思えますか。

短大・大学誘致が半数以上を占める

〔答〕 この問いでは、「短大・大学等の高次教育機能の誘致」というのが圧倒的に強く、全体の51.8歳(157人)を占めており、ついで「研修活動、研修内容の充実等による教職員の資質向上」が15.5歳もありました。

〔問〕 減速経済下にあって新たな対応が迫られている中小商工業の発展をはかるうえで、今後、重要となるものは何だと思えますか。

共同化・集団化の促進へ

〔答〕 一番多く意見があったのは「共同化、協業化及び集団化の促進」で33歳(100人)が答えており、つづいて「中小企業者の経営意欲の増大」と答えた人が27.4歳(83人)、「流通機構の改善」が26.1歳(79人)などとなっています。

新総合計画の論文・作文入選きまる

＝明日の富士市を築くための計画＝

議長賞

政治の要は、治山治水の一語に要約されるといっても過言ではあるまい。それなくして安定した生活は、あり得ないのだからそれで私の一文もそこから出発したいと思う。

ドイツ人は、水を語る時まず土を語るという、土や森林を抜きにして、水は語れないのだ。そこには浄化機能としての土の重要性があるのだというが、地形の違う彼我を一緒にすることはできないとしても、このバックボーンをしっかりと持たぬ限り生命の根源である水を治めることはできない。そのために何よりも優先しなければならないのが自然破壊の防止、環境の整備である

地下水脈は複雑で、一ヶ所壊すと全く予期しなかった場所に大きな影響を与えるという。予期せぬ時期に予期せぬ災害による予期せぬ被害を出さぬためにも、自然破壊防止はなによりも優先されなければならないことなのだ。しかしそれなら手をつけず自然のままに放っておけばよいのかといわれればノウである。

生態系を損なわず植林などによる治山整備は、常に行われなければならない。20万市民の共有財産としての公園機能も果たし、更に放牧による酪農も市民が新鮮な牛乳、乳製品、畜肉などの恩恵を受けるといふかたちで産業として成り立たなければならないし、そうなり得る態勢を行政的にとってゆかなければならない。

また上水道をトイレに使う国は、日本だけだと聞いたこともある。水分を処理するのにその何倍の水をもってするというのは考えてみればいかにも非合理的な話である工場用水又しかり、水の循環使用ということを実際に考えることが次世紀への責務だと思う。

次に当然汚染防止を考えなければならない。産業都市である以上、産業廃棄物はある程度仕方のないことかもしれないが、公害は発生源でシャットする大原則は固持しなければならない。産業の絶対量が違って来た以上、いまや、かつての自然による浄化作用は期待すべくもないのだ。この大前提に立ってさえ公害は防



富士市中央町三丁目 山田美冬(主婦)

“明日の富士市のために”

ぎきれないと思うのに、国は基準を軟化した。そういう中にあっても断固として地方自治体としての独自の基準を守ってゆく姿勢が欲しい。そのための科学的理論を確立するために、また更に水の循環利用や産業廃棄物の有効利用の研究をする総合研究機関の設置を望む。

古くからその美しい風景をうたわれた田子の浦も今その海岸に立てば、防潮堤とテトラポットのただ羅列である。勿論、高波を防ぐ工夫はしなくてはならない。しかしこんな近くに海をもちながら、産業ゆえに海水浴もできない海岸にしたままでは困る

富士市の産業は生活と密着した二次産業であるから住民に親しまれる存在でこそあれ、公害源として憎悪の対象となる存在であってはならない。

もう一つ早急に設置したい機関として、消費者センターがあげられる。利害相反することの多い商工課の中に場違いな感じでおかれた、おぎなりの消費者行政では困る何故、消費者行政を早急に充実しなければならないかということ、これからの消費者教育は、ただエゴ的な保身のための安全を求めめるものではなく、宇宙船地球号という発想の中で、より広く、より高い次元で省資源教育をし、全市民の啓蒙を促してゆく使命があるからだ。そういう教育機関としてのセンターでありたい。消費者あつての産業である以上、全市民の幅広い健康と安全のために医療機関の充実と共に切に望むものである。

どこのことか残念ながら忘れたが“公園街でお買物、というキャッチフレーズを新聞紙上でみたことがある。その時、未来都市の理想はこれだ!”と思った。時折思い出したように行われる歩行者天国では困る。それが常時行われている状態、お祭りさわぎでなく、老人や子供が安心して買物に行

ける状態という意味においてである。そのためには、商店街への車の乗り入れは極度に規制しなければ

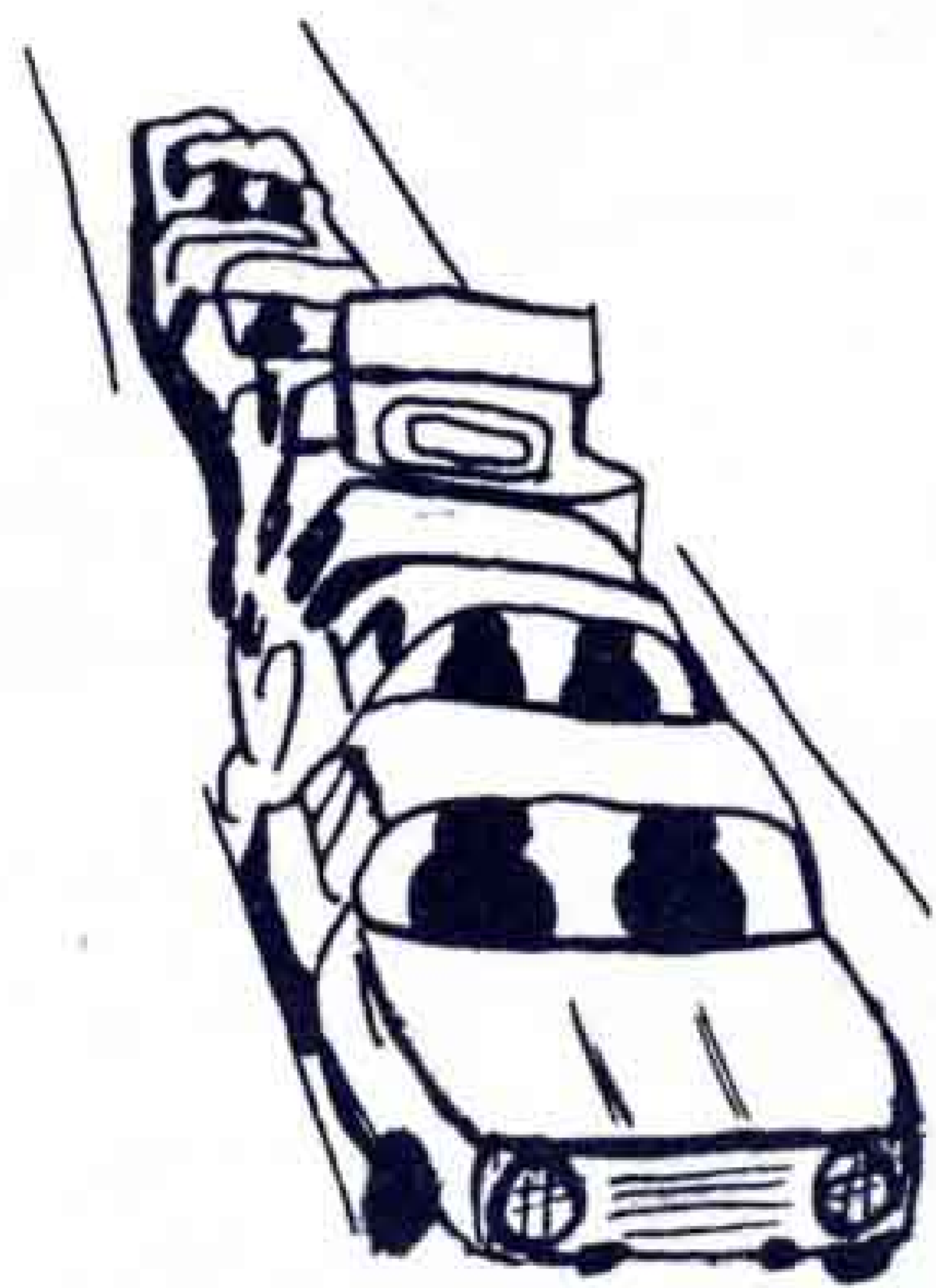




ばならないが、道路の整備、時間制限というようなことで対応していく。建物の高層化は必至であるから、災害時の避難所も兼ね、交差点を拡大し、噴水や樹木によるミニ公園化をする。

街を暗くするだけで何の役にも立たぬ今のアーケードは、取り払い、街路樹を植えた方がよい。街路樹が芽を吹き花咲き紅葉することで、四季を感じる街、ベンチで一服する時、この町に住む幸せをしみじみと感じる街、それは理屈でなく人の心を和やかにし、地域社会の人間関係をスムーズにしてゆくことにも役立つはずだ。

住民福祉の面で是非考えたいのが、幼児保育と老令化する社会への対応策だが、これを切り放して考えすぎているような気がする。言葉としては老人、子供と



一口にいいながら、施策としては全然別になっている。これをもう少し一体化して考えることはできないだろうか。例えば老人ホームに保育園を併設する。案であるから運営面のことを具体的に述べることはできないが、或る面では放し、或

る面では一緒に行動する。ただ「大事に放置、されているホームの老人よりは、良い結果が得られることはまちがいないし、老人をいたわること、尊敬することが幼児より自然に培われることにも役立つはずだ。

公民館活動も充実、定着して来ているが、まだまだその恩恵にあずかれない地区も多い。各町内で独自に作った公民館も含め、知的満足も得られる気軽な交流の場としての機能を果せるよう更に充実させると共に子供のための文化センターを設けたい。

環境、福祉、生産と並び、文化都市を標榜する以上文化を育む土壌をまず作らなくてはならない。美しい花となる可能性を秘めた種子も根付く土壌なくしては開かない。その土壌作りのためのセンターであるから

子供のための文化活動は、全てこれを利用できる。また、適切に指導、援助する機関でもあって富士市に住む全ての子供が、豊かな情操を育てられるよう、その機会を与えられる場としたい。

20万の市民がいて、文化を大きな都市作りの柱の一つとするからには、大学も一つは欲しい。富士市にはユニバーシティよりカレッジの方がよいかもしれない総合計画案の具体化に役立つような環境保全科、公害科等を含む産業大学といった形の農工大学が出来るとよいと思う。

富士梨という言葉はあっても、市内の果物屋の店頭にそういう表示はない。出回っているのかどうかもわからない。名産に値いするものならば、適当な保護と更に積極的な育成をする施策を講じなければと思う。これに限らず、土地産の青果物が、潤沢に市場に出回るような流通機構の確立と、農業を見捨てたくなるような状況を、一掃しなければと思う。そのためには、思い切って有利な農業保護政策を考えなければならない。

巨費を投じた卸売市場は、今どういう役目を果たし市民にどういう恩恵を与えてくれているのか？。開設に当たって目標とした計画案のどれ位が実現しているのか、将来の見通しはどうかなど改めて総点検し、当初理想とした姿に近づけてゆかなくてはならない。

著しい宅地化の波の中に押し流されてゆく畑をみるのは淋しいことである。

以上書いてきたようなことは、一応誰にも考えられることではある。大事なことは、このような市政を押し進めてゆく原動力としての市民の姿勢があるかどうかということだと考える。そこにこそ富士市の明日がかかっているのだ。



第7回世論調査を実施します

今回はとくに「広報・広聴」について

あなたの声を市政に反映するため市では第7回の世論調査を次の要領で実施しています。

今回は、市と市民がお互いに意志をかよわせ、密接に結びつくよう「広報」と「広聴」についてお伺いしています。

広報は、広報紙や広報無線などを通じて市民に直接、関係の深い市の行事をお知らせしており、広聴は、市民のみなさんが、日ごろ市に対して感じていることや、こうしてほし

いという意見や要望などを、お聞きしています。これが「広報・広聴」です。

調査の対象者は、市内に住む20歳以上の男女を選挙人名簿から1パーセントに当る約1,373人を男女、年齢、地域がそれぞれ平均化するようコンピューターで無作為抽出しました。

調査の内容は、広報紙の評価や広聴の利用状況、市民のご意見ご要望さらに市政への関心度などを中心に

23の設問についてお伺いしています。調査票は11月5日ごろあなたのお宅へ郵送しましたので、「住みたくなるまちづくり」のためにご協力をお願いします。

なお、しめきりは、11月15日までに必着となっておりますので、該当するところの番号を○で囲んでいただいたら、返信用封筒に調査票を入れて市企画調整部広報広聴課（内線528）へ送ってください。

12月1日から 道路交通法が変わります

道路交通法が、7年ぶりに大幅改正され12月1日から施行されます。

今回の主な改正点は

- 自動車やバイクの新しい通行方法や、バイクのヘルメットの着用、運転マナーに欠ける人に対する罰則などの強化。
- 自転車の新しい通行方法や、ブレーキ、反射器材などの整備義務。
- 事業所など業務で車を使用する人に対する安全運転管理の強化。

この中には、酒酔い運転をすると違反点数15点で直ちに免許取消しとなりますし、暴走族の暴走運転は違反点数9点で、6ヵ月以下の懲役、罰金5万円以下と非常にきびしく改正されています。また、過去2年間

無事故、無違反であった方が、1、2点の違反をした場合、その後3ヵ月間違反がなければ、その違反点数は点数計算の対象から除外される優遇措置もあります。

この改正の詳しい内容につきましては、市民のみなさんに理解していただくため、各家庭にパンフレットをお配りしました。

もう一度家族の話題にとりあげて



みましょう。

また、交通安全協会分会などで講習会を開きますし、町内会や事業所で講習会を希望される方は、富士警察署交通課（電話52-2543内線320）まで連絡してください。



火災の臨時放送について

〔こえ〕火災の広報無線放送を聞くたびに家をあけている時、又家の外に店舗等をもっている者にとって大変ありがたく思っています。しかし、場所を放送するのに住居

表示を使っていますので、聞く者にとって場所がわかりにくくてこまります。放送する時は、旧町名を使っていただけだと思います。
(今泉・Tさん)

〔こたえ〕今後も現行通り住居表示に関する法律により定められた町名を使用し、旧町名は使用しない方針です。ただし火災発生場所付近の目標物などを放送して、わかりやすくするよう努力しますのでご了承ください。

(市消防署)





このコーナーでは「トピックス」と題して、地域の明るい話題、できごとなどを掲載しています。みなさんのまわりで楽しい催し物や行事、話題がありましたら、どしどし市広報広聴課（電話51-0123 内線528）までご連絡ください。

墓穴320基を発見

西富士道路文化財発掘調査で

東名高速道路、富士インターチェンジ入口の伝法大原とい口の2カ所出で、西富士埋蔵文化財発掘調査が行われています。

これは、昭和54年から工事が始まる西富士バイパスの建設予定地周辺に、東平遺跡と呼ばれる貴重な埋蔵文化財があるため日本道路公団が富士市に発掘調査を委託したものです。

調査は、昭和53年5月から昭和55年7月までの予定で、

5カ所にわけ、約6万平方メートルを調査します。

現在、発掘されているBおよびC地点からは、今からおよそ600年くらい前の室町時代から戦国時代の初めと思われる円型土坑（お墓の穴）320基余が発見されています。

この他に、奈良時代から平安時代のカワラの破片なども出土されています。



【写真・直径1メートル～1.5メートルの円型土坑】

ガンバレ!

おじいちゃん、おばあちゃん

「おくまさ〜ん、おたまちゃ〜ん、がんばってえ!」秋晴れの吉原小学校のグラウンドに響き渡る黄色い声援、第6回老人スポーツ大会の開幕です。

この10月22日を待ちに待ったと、おじいちゃん、おばあちゃん1,500人が朝早くから集合です。競技種目は順送球、タイヤころがしリレー、パン食

い競走、綱引き、400メートルリレーなど8種目、競技が始まれば、年を忘れさせてしまうのが、この大会。いたてんも顔まけのおじいちゃん、サイのごとく突進するおばあちゃん、コロリところんでしまうおばあちゃんもいて驚いたり、笑ったり、ヒヤリしたり、とっても楽しいスポーツ大会でした



岩本公園で野外活動訓練

「自立と調和」をテーマに掲げた「ボーイスカウト・ガールスカウト富士地区ラリー」が、10月15日の日曜日、岩本山公園で開かれました。

このラリーは、ボーイスカウトが野外活動訓練を主として、毎年1回開いており、市内の14隊、約1,000人が参加しました。



【写真・「アマゾン」の渡し舟に挑戦するスカウト】

「すばらしかった」

第12回市内中学校音楽発表会

息の合ったハーモニーや美しいメロデーが会場から流れています。

これは10月17日吉原市民会館ホールで開かれた第12回富士市内中学校音楽発表会の一コマでした。



この日、「合唱の部」に10校、「リード合奏の部」に3校、「吹奏楽の部」に9校の21校が参加して、日ごろの練習の成果を披露しました。

会場には、応援にかけつけた父兄やお友達がいっぱい。さかんに拍手をおくっていました。

最後に「全体によくまとまり、たいへん進歩のあとがありありと見え、とてもすばらしかった」という講評でした。

【写真・精いっぱい合奏する生徒たち】



地質・地形 (No.5)

地質・地形の移り変わり

■湿原 (しつげん)

今から約5,000年前の駿河湾は、富士山や愛鷹山のふもとまで入りこんでいましたので、今の浮島ヶ原は海の底でした。しかし、陸地に近い海底では、富士川によって運ばれた砂レキがつもり、かまぼこのような細長い「州(す)＝沿岸州(えんがんす＝)をつくらせていました。

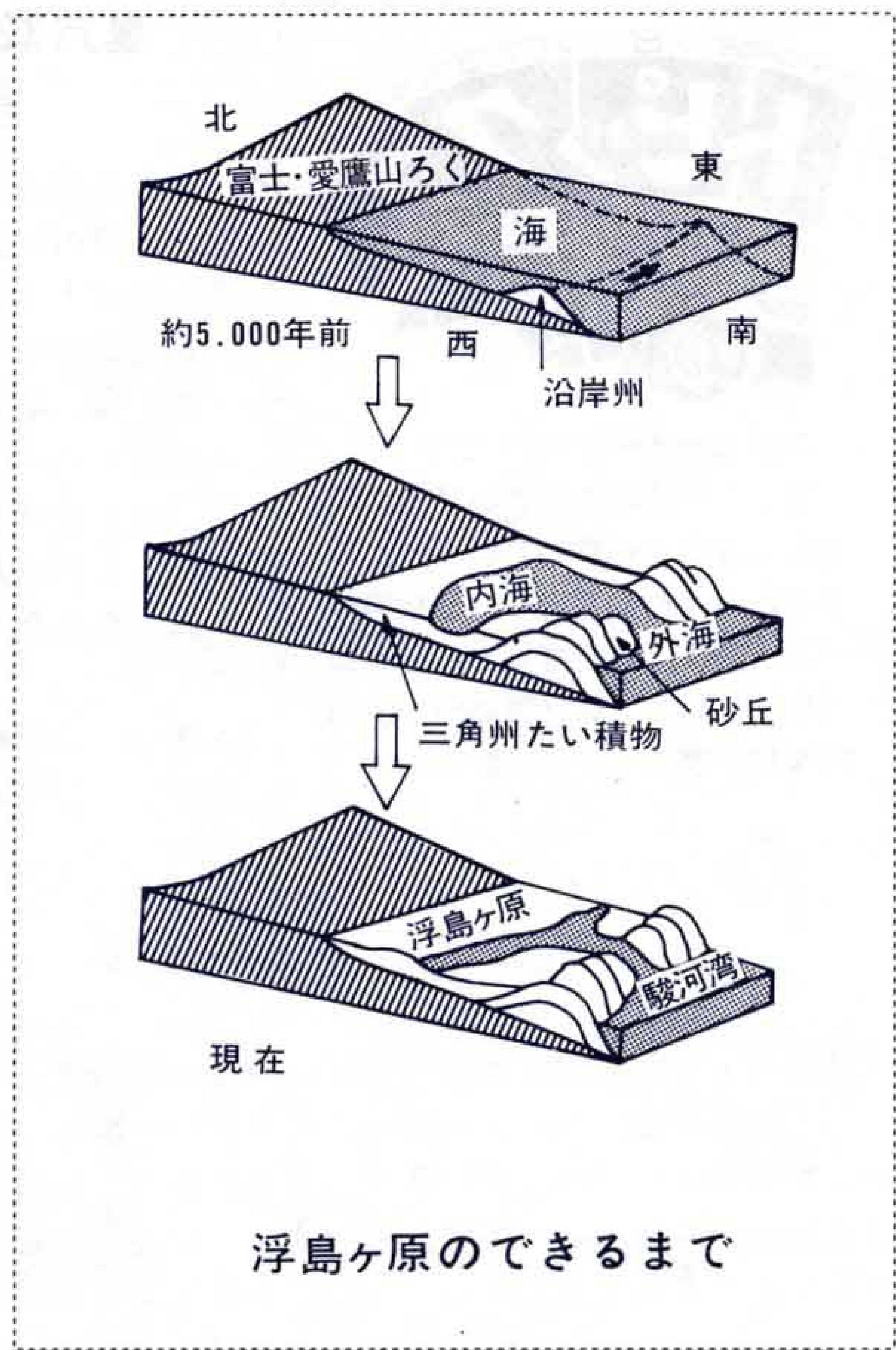
その後、海面がさがるにつれて、今まで海中にあった沿岸州が姿を現わし、天の橋立(あまのはしだて)のような砂州(さす)ができました。この砂州のために、海は外海と内海にわけられ、内海が今の浮島ヶ原のはじまりです。

内海は、やがて湖となり、その湖もしだいに流れこむ河川のたい積物などで埋め立てられて沼地となり、湿地に変わり、浮島ヶ原を形づくりしました。

最近まで、沼地が残っていたところから、「浮島沼」とも呼ばれています。



【写真・わずかに湿原のおもかげをしのばせる、ヌマトラノオとヨシ (沼川と須津川の合流点付近)】



浮島ヶ原のできるまで

■砂丘 (さきゅう)

富士川の河口から沼津市の牛臥山(うしぶせやま)まで、海岸線に平行にできている砂丘を、田子の浦砂丘と呼びます。この砂丘は、沿岸州として発達した砂州の上に、風や波によって打ちあげられた砂が重なってできています。

砂丘は、幅が200mから900mもあり、高さは平均10mで、高い所では20mもあります。

■平野

加島平野も、もとは、浮島ヶ原のおいたちのように海の底で成長していた富士川の三角州です。

その後、海面がさがるにつれて、陸地が現われ、その上に、さらに流れてきた土砂が扇のように(扇状地) (せんじょうち)たい積しました。これが加島平野で、岩本の実相寺付近が扇のかなめの部分にあたっています。

その当時の富士川は、水神のまえで東に向を変えていくつもの支流をつくっていました。江戸時代になって、難工事のすえ、古郡文右エ門重年によって、雁堤(かりがねづつみ)が完成(西暦1674年、延宝2年)しその時から、富士川の流れが変わり、当時小さな支流だったところが本流となり、いまのすがたになりました。
(次回からは気象を連載します)